

宮崎県門川町庵川東入り江で採集されたトウガタガイ科貝類 – キンランホソクチキレ –

三浦知之・三浦 渚

〒 880-0035 宮崎市下北方町

Abstract

A pyramidellid mollusk species was recorded from Iorigawa inlet, Southern Kyushu, Japan: *Syrnola serotina* A. Adams, 1863. This species and two others: *Syrnola cincitella* A. Adams, 1860 and *S. subcincitella* Nomura, 1936 are characterized by a very clear narrow brown band on the base of each whorl. The newly recorded species has an additional broad light brown color band on the center of the whorl and differs from the others.

はじめに

宮崎県と鹿児島県を含む南九州の沿岸や海岸の底生生物を調査し、多様性の高いトウガタガイ科貝類を記録している。前報（三浦, 2025a, b）に続き、本稿では宮崎県門川町のアマモ場に生息する *Syrnola* 属の1種キンランホソクチキレを報告する。

材料と方法

材料は、宮崎県門川町庵川東入り江のアマモ場で2009年7月から2022年8月に海底の泥を1 mm メッシュで篩って採集した。得られた標本は生きた状態で持ち帰って、可能な限り生体の軟体部を解剖顕微鏡下で観察した。必要に応じ、超音波洗浄機を用いて付着物を除き、70% Alcohol に保存して、殻の形態を観察した。なお、外唇肋の有無に違いがある材料を分けて示した。また、内面螺肋を観察するため、一部の標本の外殻を割断した。

トウガタガイ科 Pyramidellidae Gray, 1840

Turbonillinae Bronn, 1849

Syrnola A. Adams, 1860

キンランホソクチキレ *Syrnola serotina* A. Adams, 1863 (Figs. 1 & 2)

Syrnola serotina A. Adams, 1863, p. 234; Melvill, 1910, p. 175; 肥後・後藤. 1993. p. 128. fig. G4493. *Syrnola susakiensis* Nomura, 1939, p. 134, pl. 9, fig. 23.

キンランホソクチキレ 堀, 2017, p. 1108, pl. 411. fig. 4 as *Syrnola susakiensis* Nomura, 1939.

ホソクチキレ 成ヶ島探見の会, 2023, p. 20, 図 107E as *Syrnola cincitella* A. Adams, 1860.

? (partim) ヤセクチキレ 堀, 2017, p. 1108, pl. 411. fig. 3 as *Syrnola serotina* A. Adams, 1860.

? (partim) コホソクチキレ 堀, 1996, pp. 149–150, figs. 21–22 as *Syrnola cincitella* A. Adams, 1860.

採集記録 外唇肋を備える個体 (Fig.1) : 2009

年7月4日宮崎県門川町庵川東入り江ウミヒルモ場 (1); 2010年4月29日同所 (2); 2010年7月24日同所 (1 死殻); 2011年5月4日同ウミヒルモ場 (1 死殻); 2018年6月14日同アマモ場 (1); 2019年6月17日同ウミヒルモ場 (5); 2019年7月4日同所 (1); 2019年8月28日同所 (2); 2020年6月21日同入り江中央アマモ・コアモモ境界域 (1); 2020年7月21日同西側漁港前水路 (1); 2020年8月19日同所 (5) .

外唇肋を確認できない個体 (Fig.2) : 2010年4

Miura, T. & N. Miura. 2025. Pyramidellid mollusk species recorded from Iorigawa inlet, Miyazaki Prefecture –*Syrnola serotina* A. Adams, 1863–. *Nature of Kagoshima* 51: 269–272.

✉ TM: Shimokitakata-machi, Miyazaki 880-0035, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 10 March 2025; published online: 11 March 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-057.pdf

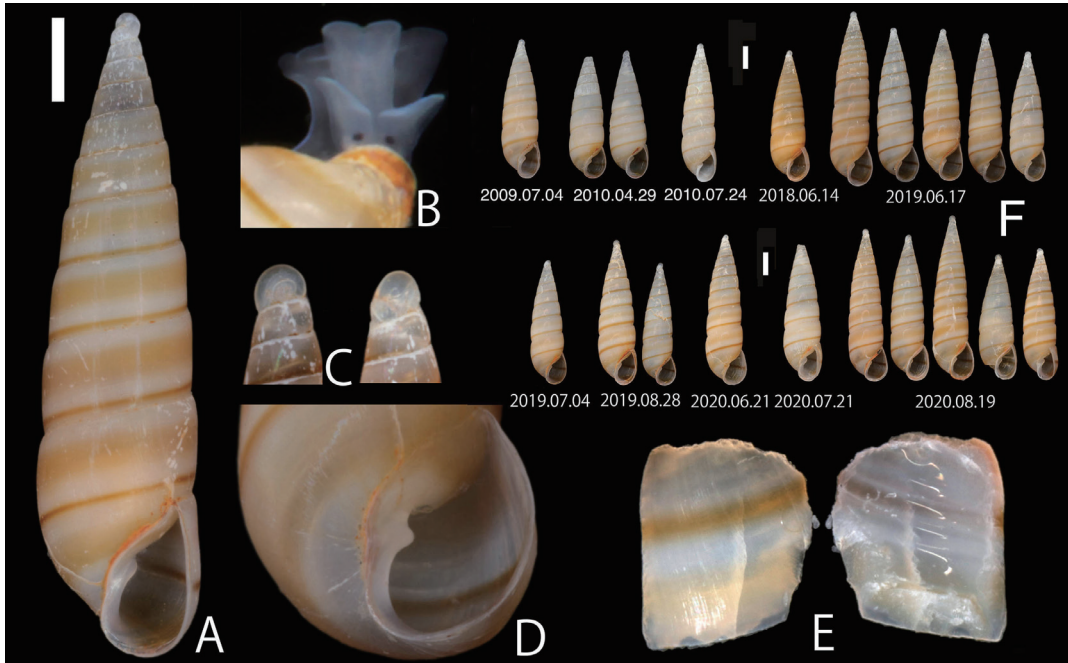


図1. 外唇肋の確認できるキンランホソクチキレ *Syrnola serotina* A. Adams, 1863. A. 2010年4月29日に門川湾庵川東入りで採集された個体；B. Aと同時に採集されたやや小型の生貝軟体部背面；C. Aの殻長部拡大図；D. Aの殻口部（外唇肋が見やすい角度から）；E. 2010年7月24日採集個体の割った外殻外面と内面；F. 採集日毎の庵川東入り江から得られた外唇肋の確認できた個体。スケールは、A, Bおよび日付毎の採集標本の1mmを示す。

Fig. 1. Specimens with paratal ridges of *Syrnola serotina* A. Adams, 1863. A. Specimen collected from Iorigawa inlet, Kadogawa Bay, on April 29, 2010, ventral view; B. Enlarged head region of a living specimen collected from the same site on May 7, 2020, dorsal view; C. Enlarged protoconch of the specimen A, two different angles; D. Internal ribs on crashed shell of the specimen collected on July 24, 2010, outer and inner surfaces; F. Examined specimens with sampling date from Iorigawa inlet, ventral view. Scales for A, B & dated specimens = 1 mm.

月29日宮崎県門川町庵川東入り江ウミヒルモ場(3)；2010年5月16日同所(2)；2010年7月24日コアマモ場(1)；2011年5月4日同ウミヒルモ場(2)；2020年5月7日同所水路沖側(4)；2020年6月7日同ウミヒルモ場(3)；2020年6月21日同アマモ場横水路(1)；2020年7月21日同西側漁港前水路(4)；2022年6月2日同所(2)；2022年8月12日同所(1)；同ウミヒルモ場(2)；2023年4月22日同コアマモ場(2)；2024年4月10日同ウミヒルモ場(3)。

形態・分布・生態 庵川東入り江から得られた最大の個体は、殻高7.7mm、殻径1.9mmであった(Fig. 1F, 2019.06.17の左端個体)。胎殻は2層で、第1層の端が後生層に埋まり、108–115°異旋する(Fig. 1C)。後生殻は最高10層で、殻頂に近い各層の側縁は直線的で、体層と次体層を含む数層ではやや膨らみ、丸みを帯びる。また、中型までの個体や殻口の欠けた死殻では全体が紡錘形にな

る(Figs. 1F & 2)。次体層では幅に対する高さが54–64%で短い。体層は殻高の36–40%、殻全体に対する体層部分が大きく、目立つ。殻表は平滑で光沢が強い(Fig. 1A)。縫合はV字型に凹み、肩が丸く、段差のある側縁になる。各層の殻表中央に淡い赤褐色の幅広い色帯が1本あり、前後をやや白い地色に挟まれ、周縁部には細く濃い赤褐色色帯が見られる(Fig. 1A)。殻底部にも幅広く薄い赤褐色帯と幅狭く濃い赤褐色帯がある(Figs. 1A & D)。成長線はまれに粗い縦走痕を伴う。それ以外の彫刻はない。軸壁は斜めでやや弱いが、明瞭である。軸唇はせり出し、狭い臍孔のように見える。臍部周辺は白いことが多い。殻口は菱形に近く、角張った印象を持つ(Fig. 1D)。殻口外唇内面には明瞭さに多少の幅はあるが、観察角度に注意すると白い3–4本の螺肋(外唇肋あるいは口蓋歯) paratal toothを確認できるが、できない場合もある、別種の可能性を考え、Figs.1 & 2に分け



図2. 採集日毎の庵川東入り江から得られた外唇肋の確認できなかったキンランホソクチキレ *Syrnona serotina* A. Adams, 1863 の全個体。スケールは、A および日付毎の採集標本の 1 mm を示す。

Fig. 2. Specimens without paratal ridges of *Syrnona serotina* A. Adams, 1863. Shown all specimens with sampling date from Iorigawa inlet, ventral view. Scale = 1 mm.

たが、最終的に同種と判断した。外唇肋の延長は貝殻内面全体に連続し、3–4 本の内肋 internal keel となる (Fig. 1E)。

軟体部は白色で、頭部触角はやや広い三角形で中央が高く、その両側に翼状に張り出す。触角基部の大きく丸い眼は、眼 3.5 個分離れて位置する (Fig. 1B)。軟体部に白色腺状の斑紋は少なく、半透明で白く均質な触角、口吻基盤および腹足が確認される。口吻基盤は細長く伸び、先端がやや広く、中央に明瞭な窪みがある。腹足は前縁の角が丸い。

本種を含むホソクチキレ属 *Syrnona* A. Adams, 1860 は約 200 種を含むトウガタガイ科の大きなグループであり (WoRMS, 2025), なめらかな殻表、90–135° 異旋する原核および明瞭な軸壁をそなえることが特徴とされ、軸壁を欠く *Eulimella* Forbes & M'Andrew, 1846 属などと区別される (Peñas & Rolán, 2016)。ホソクチキレ属とされるトウガタガイ類は国内に 20 種以上報告されているが、未だ整理されていないため、複数の属に分けられる可能性も高い (WoRMS, 2025 など)。

キンランホソクチキレは小笠原諸島父島から得られた死殻が *Syrnona susakiensis* Nomura (1939) として記載され、堀 (2017) により和名が付けられた。原記載の形態に近い死殻標本 (Fig. 2C, 2011.05.04 の右端) では殻口が欠損して、外殻全体が紡錘形に見える。また、肥後・後藤 (1993) により *S. serotina* A. Adams, 1863 のホロタイプが撮影され、殻形態がより判然としたことから、*S. susakiensis* が本種のシノニムであると判断され

た。ただし、和名については広く知られ、多種を含んでいる可能性のあるヤセクチキレとの混同を避けるため、あえてキンランホソクチキレを採用した。

今回得られた生貝標本 (Figs. 1F & 2C) は、大きな体層の丸みが際立つ。キンランホソクチキレ、ホソクチキレ *Syrnona cinctella* A. Adams, 1860, コホソクチキレ *S. subcinctella* Nomura, 1936, ヤセクチキレ (複数種を含む可能性のある形態上の Operational Taxonomic Unit として) の 4 種は、周縁部に細い赤褐色帯を備え、細長い紡錘形で、体層が大きく丸みがある。キンランホソクチキレでは各層中央の幅広い黄橙色の螺帯が目立ち、殻全体が染まっているように見えることもあり、ホロタイプの写真とも一致するため、各層の中央が白い上記の他 3 種とは区別される。

キンランホソクチキレの外殻内面に現れる内肋は、殻を割って確認した全ての標本で観察された。しかし、その延長と思われる殻口部の外唇肋は確認が難しく、確認できない場合もあり、個体変異と判断し、当初分けていた標本リストをそのまま掲載した。外唇肋を持つことから、*Tyberusyrnona* Laws, 1937 属とされる場合もあるが (WoRMS, 2025), 個体変異もあり、ここでは採用しなかった。宮崎県門川町の庵川東入り江のアマモ場周辺では本種を含む複数種が採集されており、今後、その詳細を明らかにしたいと考える。

Syrnona 属の分類で重要な前報 (三浦, 2025b) で謝辞の部分が欠落していたため、ここに再掲する。ククリクチキレの和名と同定に関して重要な文献である吉良哲明 (1946) の関連ページ入手にあたっては、大阪市立自然史博物館および同館学芸員石田惣博士に多大なご助力をいただき、ここに深く謝意を表する。

引用文献

- Adams, A. 1860. On some new genera and species of Mollusca from Japan. *Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*. ser. 3, 6: 331–337.
- Adams, A. 1863. On the Species of Obeliscinae found in Japan. *Proceedings of the Zoological Society of London*. 1862: 231–238.

- 肥後俊一・後藤芳央, 1993. 「日本及び周辺地域産軟体動物総目録」. エル貝類出版局, 八尾市, 693 p.
- 堀 成夫, 1996. 萩市郷土博物館所蔵の山口県北部地方産トウガタガイ科貝類(軟体動物門:腹足綱:異旋目)の再検討. *Yuriagai, Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi*, 4(1/2): 139–162.
- 堀 成夫, 2017: トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」. 東海大学出版会, 平塚. pp. 1105–1123, pls. 408–422.
- Laws, C.R. 1937. A review of the Tertiary and recent neozelanic pyramidellid molluscs. No. 4–The syrnolid genera. *Transactions of the Royal Society of New Zealand* 67: 303–315.
- Melville, J. C. 1910. A revision of the species of the family Pyramidellidae occurring in the Persian Gulf, Gulf of Oman and North Arabian Sea, as exemplified mostly in the collections made by Mr. F.W. Townsend (1893–1900), with descriptions of new species. *Proceedings of the Malacological Society of London*. 9: 171–207, pls 4–6.
- 三浦知之, 2025a. 鹿児島県奄美群島加計呂麻島で採集されたトウガタガイ科貝類 – アンバルクチキレー. *Nature of Kagoshima*, 51 : 235–228.
- 三浦知之, 2025b. 宮崎県と鹿児島県で採集されたトウガタガイ科貝類 – チャイロクチキレー. *Nature of Kagoshima*, 51: 229–232.
- 成ヶ島探見の会, 2023. 由良湾・成ヶ島周辺の貝類 (2022 改訂版). 洲本市. 奥井印刷. 242 pp. (3+vi+40 pp. 178 図版. 索引 14 pp.)
- Nomura, S. 1936. Pyramidellidae from Siogama Bay, northeast Honsyu, Japan. *Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletins*. (10):1–108, pl. 1–12.
- Nomura, S. 1939. Summary of the fossil and recent Japanese Pyramidellidae, with the descriptions of several new species. In: Jubilee Publication in the Commemoration of Professor H. Yabe, M.I.A. Sixtieth Birthday, vol. 1: 119–156, pl. 9.
- Peñas, A. & E. Rolán, 2016. Deep-water Pyramidelloidea from the Central and South Pacific 3. Eulimellini and Syrnolini. *Servizo de Publicacións e Intercambio Científico, Santiago de Compostela*, 301p.
- WoRMS, 2025. <<http://www.marinespecies.org>> (2025.3.8).